

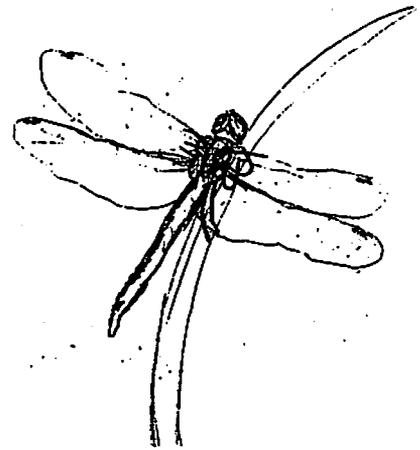
自然観察 Now

野幌森林公園自然情報
平成24年度 No. 6
平成24年10月11日発行
北海道ボランティア・レンジャー協議会

この公園にも軽やかに飛んでいた<赤トンボ>も仲秋になって少なくなってきたが ——なぜ赤色になるのか、わかってくる。

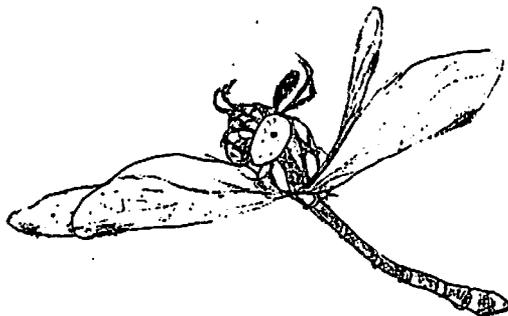
トンボについては、私たちの発行する<NOW> (第4号 8月9日付) でも、その分類、生態など簡単に紹介してきました。今回もまたトンボか、と思う人もいるでしょうが、今回の観察会の下見会…観察会の前日には必ず下見の研修会を実施…でもトンボ、コウロギの生態の研修をすことになっていて前回とは異なった視点から報告できそうです。

・<アキアカネ>は、全国各地で多く見られ季節を感じさせてくれるトンボで一般に赤トンボといっている。勿論、赤トンボと呼ばれるものには、ナツアカネ、ミヤマアカネなどいくつかの種がいます。このアキアカネは6〜7月頃に発生し、今日でも見られる蜻蛉類(トンボの古語)です。このトンボは北方系で暑さに弱いため夏は高山で生活し、夏の終わり頃から秋にかけて産卵のために平野におりてきます。おもしろいことに、初秋でも残暑が残る日には竿の先にとまり、太陽にお尻を向けて逆立ちしている姿をよく目にしますが、太陽の光を体に当てる面積をなるべく少なくして体温を上げない工夫をしているそうです。



アキアカネ

・この赤トンボなどの生態は解明されていないことが多いようですが、なぜオスが赤色になるのか、がわかってきました。未成熟のオスは黄色っぽい体をしていますが、成熟したときには<キサントマチン>という色素の還元反応によって起こることが解かってきた。(「朝日新聞」、9月27日夕刊) 今後は遺伝子レベルでの発色の仕組みが解明されてくるかもしれない。



オニヤンマ

・この赤トンボをはじめ農薬の影響もあって減少しているようです。私たちが子どもの頃見かけた大きな黒地に黄色い縞模様のオニヤンマ、しっぽの付け根の下に白色の部分がある(銀色に見える)ギンヤンマなどほとんど見るのがなくなりました。様々なトンボが飛びかって森をにぎやかにしてほしい。

風情を誘うコオロギの鳴き声を聞いて

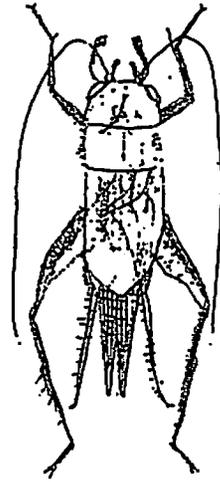
夕方には、私の家の周りでもエゾエンマコオロギたちの美しい鳴き声が聞こえてきます。秋が一層深まってきた感じがします。

この鳴き声は、正しくは鳴き声ではなく、4枚の羽のうち上の2枚の羽を巧みにこすりあって奏でている音だそうです。コオロギのオスが、遠くにいるメスを呼びよせたり、近くにいるメスに愛を告げたり、更にはオス同士が威嚇しあうときに音を奏でているようです。それは生きる戦略としての叫び声でもあるといえます。

その他に、コオロギの特徴として触覚は糸のように細く、耳は前脚の脛節（けいせつ）の白く見えるところにあります。

コオロギのオス同士の戦いで、勝ったオスは威張り、一層攻撃的になり、他方、一度負けたオスは戦意を失っていつも逃げてしまうそうです。コオロギの世界もなかなか厳しいものがあります。人間の社会もどこかコオロギと似ているように思えてきたりします。

秋の夜長をエゾエンマコオロギの鳴き声ならぬ身体を楽器にして演奏するその想いを聞いてみるのも楽しいようです。



エゾエンマコオロギ

* 次回の観察会 11月11日(日) 10時~12時30分

自然ふれあい交流館 集合

<秋のありがとう観察会>

A; 大沢・カツラ

B; ふれあい・瑞穂連絡

#ゴミ袋、軍手、昼食持参(各自自由)

“詳細は交流館の情報で確認をお願い